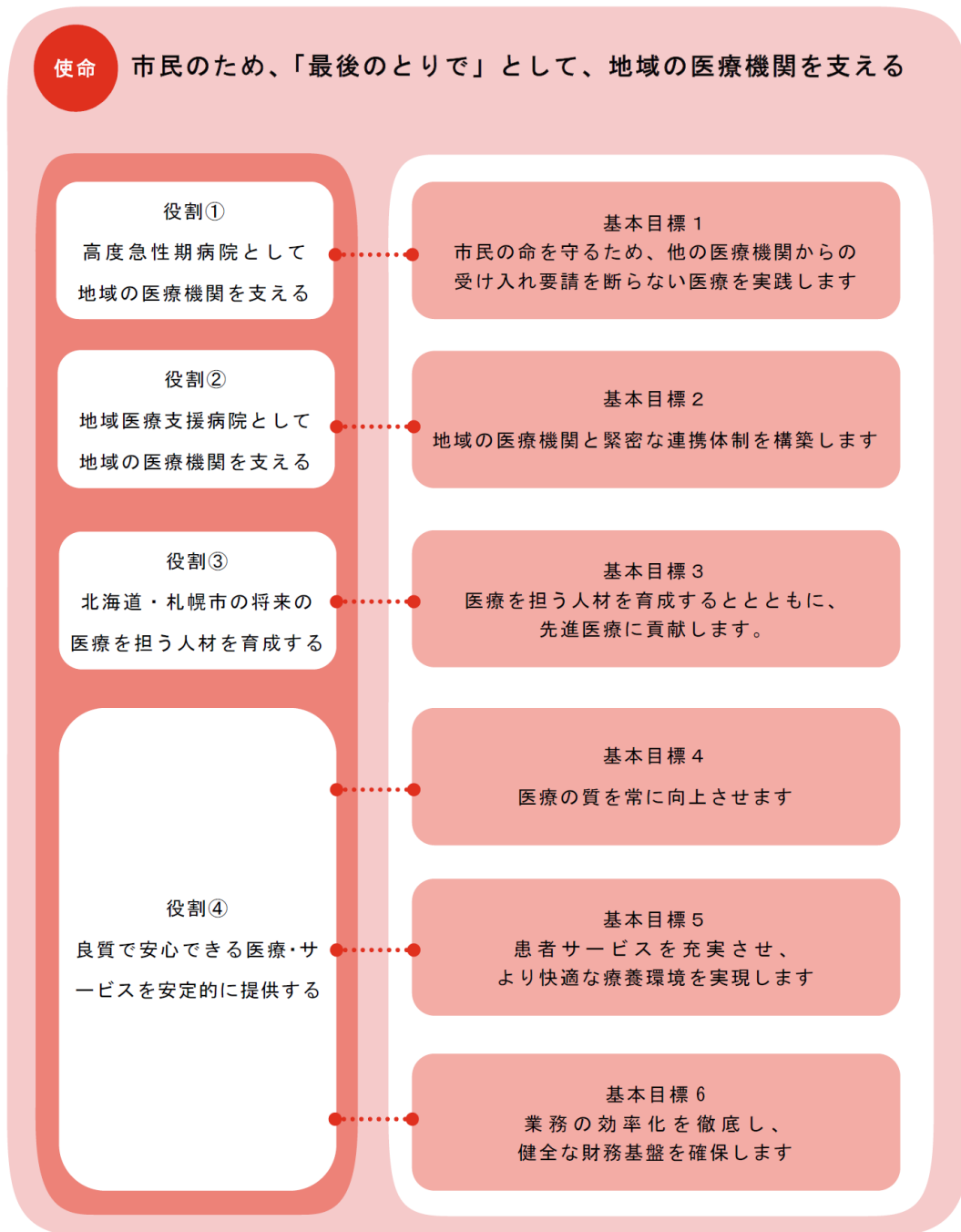


札幌市営企業調査審議会 令和3年度第2回病院部会
議題(2) 市立札幌病院中期経営計画の進捗状況について 補足説明

資料3-1 市立札幌病院中期経営計画の進捗状況

<中期経営計画の計画体系>



中期経営計画（2019年度～2024年度）では、6つの基本目標の達成に向けて16の数値目標を設定しており、毎年度の進捗管理を行っています。

<達成状況(R2)欄について>

◎：令和2年度目標を達成し、計画どおりに進捗しているもの

○：令和2年度目標は未達成だが、平成29年度実績より改善しているもの

△：計画策定時より悪化しているもの

－：現時点では判定が不可であるもの

×：目標の達成が困難なもの

令和2年度 数値目標の達成状況

「◎」：5 「○」：2 「△」：7 「－」：2

(※参考 令和元年度実績 「◎」：7 「○」：5 「△」：4)

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症への対応に伴う一般診療の制限等の影響もあり、目標及び前年度実績を下回る指標が多くなりました。

特に、主に入院に関連する指標である、①救急車等搬送件数、②手術実施件数、③病床利用率、⑤紹介患者数は、いずれも目標比で3割以上の減となりました。

一方、⑮経常収支と⑯資金収支については、国の「新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金」の活用による減収補填等により、結果的に計画値を上回っています。

資料3-2 令和2年度決算と中期経営計画の指標との関連性

1 診療収益の構造と中期経営計画の指標との関連性

入院収益と外来収益はそれぞれ「患者数×診療単価」で構成され、中期経営計画の各指標との関係性は図のとおりです。

2 入院収益

令和2年度の延入院患者数は139,859人であり、目標比▲72,202人(▲34.0%)、前年度比▲61,664人(▲30.6%)となりました。

中期経営計画の各指標をみると、救急車等搬送件数と紹介患者数がいずれ

も大きく減少しており、入院の入口となるこれらの実績の減少が、延入院患者数の減少につながったものと考えています。

また、令和2年度の入院単価は84,027円となり、目標比+9,897円（+13.4%）、前年度比+8,354円（+11.0%）となりました。

これは、新型コロナウイルス感染症の特例として診療報酬の加算があったことや、高度な治療を必要とする患者の割合が高くなったことによるものと考えています。

中期経営計画の各指標を見ると、手術実施件数とリハビリ実施単位数はいずれも目標及び前年度比で減となっていますが、入院患者全体に占める割合は減少しておらず、入院単価の減にはつながっていないものと考えています。

3 外来収益

令和2年度の延外来患者数は253,648人であり、目標比▲44,421人（▲14.9%）、前年度比▲46,984人（▲15.6%）となりました。

これは、新型コロナウイルス感染症の影響によると思われる受診控えや、入院前の外来受診の減少、また、患者の容体に応じて可能な範囲で長期の処方を行ったことなどによるものと考えています。

また、令和2年度の外来単価は22,967円であり、目標比+4,897円（+27.1%）、前年度比+2,644円（+13.0%）となりました。

これは、急性期以外の患者が減少したことに加えて、通院で抗がん剤治療を行う外来化学療法の数が増えたことが目標及び前年度実績の両方を上回ったことなどによるものと考えています。

4 収支の状況・財務指標

各種財務指標の比較をみると、経常収支比率は計画値及び前年度実績を大きく上回った一方、医業収益に対する職員給与費、材料費、委託費の比率が悪化しています。

これは、経常収益の増が、国の「新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金」等による減収補填によるものであり、主に入院収益と外来収益から構成される医業収益が減となったことによるものです。